

○蘭氣…蘭の香氣。庾信の「和樂儀同苦熱詩」に「美酒含蘭氣、甘瓜開蜜筒」、および王勃の「九日懷封元寂詩」に「蘭氣添新酌、花香染別衣」の句が見える。

○敗 ……しほむ。しほみ落ちる。〔『漢辭海』〕  
『菅家後集』「475冬日感庭前紅葉、示秀才淳茂」に「菊枯蘭敗梅猶嬾、詩興當追落葉凝」の句がみえる。

138 ○桂 ……伝説上の樹木。月にあるとされる「月桂」。月の別称。《月中に桂があるとの伝説から》〔『漢辭海』〕。

『漢語大詞典』には「桂花」の項に「亦作桂華、指月」と説明し、庾信の「舟中望月」詩の「天漢看珠蚌、星橋視桂花。」の句、および韓愈の「明水賦」の「桂華吐耀、兎影騰精」の句を引く。

『菅家文章』「385月夜翫櫻花、各分一字、應令一首」にも「芳氣近從階下起、莫言天上桂華開」の句が見える。↓補説①

○圓 ……①まるい。まどか。〔『漢辭海』〕

139 ○掃 ……①はらう。(ほうきでちりをはらう)〔『漢辭海』〕

○懸磬…①家の中に何も無い、極めて貧しいさま。《何も無い家の中で屋根裏の垂木のみが目立ち、それが「へ」の字形の、磬をかけて並べたように見えることからいう。また、一説には、「磬」はつきるの意》〔『漢辭海』〕。

②つるされた石の楽器。磬。

▼「磬」は中国起源の打楽器。「へ」の字形の石の板を架に吊り、桴でうち鳴らす。中国・朝鮮では雅楽用。日本では銅・鉄製で主に声明の合図用。

『国語』「魯語上」の「室如懸磬、野無青草、何恃而不恐。〔注〕懸磬、言魯府藏空虚、但有椳梁如